

〔Ⅱ〕 発表学習の問題点

——小集団を通して——

丸 山 豊

1. はじめに

「発表学習」なるものの定義はよくわからない。生徒に何らかの形で課題を与え、レポート、発表させることが「発表学習」なら、私も既に何回か試み失敗した。「発表学習」に踏み切るきっかけは常に授業のマンネリ化を打ち破るところにあったようだ。

「発表学習」といっても教科によって目的も方法も異なるようだ。体育科における発表学習は、個人の場合には日常的に行なわれているし、集団を利用したものも、発表すること自体が創造的で、表現力を要し、共通の認識のもとでの相互評価もごく自然のうちに可能となる。(注1)では、社会科は、どんなねらいをもつのかいろいろ考えたが、要約すると

- (イ)、生徒の授業への参加度を高める。
- (ロ)、生徒の手で授業を創りあげていく。
- (ハ)、自ら学ぶ方法を身につけさせる。

の三点ぐらいで、とりたてて「発表学習」に踏みきる要素はない。まして、社会科の場合、教科書の内容に従順に従うかぎり「発表」を取り入れる必然性がない。

「発表学習」であらねばならない。とか、それが望ましいという場合はないか考えてみた。

(イ)生徒自身、家族、地域等、密着した問題をとりあげる場合。

(ロ)生徒の特技、興味、関心を積極的に授業の中へ構成していく場合。

この場合も、夏休み等の課題か宿題で終ることも多い。

このように、不可解な「発表学習」を、小集団で取り組ませたらどうなるだろう。その場合、単に「グループ学習」と一言で片付けてしまう傾向に問題を感じ、兼ねてからの私の課題でもある。生活指導と教科の関連といった問題まで探ることはできないかと思いつつ、中2を対象に、小集団に発表課題を与えてみた。

2. 歴史学習における発表学習の実践例

歴史は生徒にとって身近かなようで、もっとも遠い。調べる方法も、眼、耳を使うことは限界がある。まして日本以外なら「発表学習」として取り組むこと自体に問題がある、このような問題点を承知であえて、世界的分野—西洋近代社会の成立—で実践したわけ

ある。

(1)課題をどう立てたか

発表学習の成否が、課題にあることはいうまでもない。B組は、学級集団をねらって日常的に8グループが、学活、清掃、道徳、学級新聞に取り組んできているので、8つのテーマを考えた。A組は、班体制が日常活動の中で行なわれていないが、歴史の授業のみ、B組に習い8グループに構成した。

課題は、教科書にこだわらず、なるべく共通課題が存在するもの。発展的には、範例的方法の試みも考え合わせ「西洋における近代社会の成立」の中から選んだ。範例の一図式は、「市民革命」にあり、民衆の力の動向を通して、「革命—民衆運動」ととらえさせ、支配する者、支配される者が明確にとらえることができる歴史事象を8つとりあげた。(注2)

- A、イギリス革命
国王と民衆 権利請願 権利章典
- B、アメリカの独立戦争
イギリスとアメリカ民衆 独立宣言
- C、フランス革命
国王と民衆 人権宣言
- D、ナポレオンとその後のヨーロッパ
英雄と民衆 ウィーン体制
- E、産業革命
資本家と労働者
- F、1848年のヨーロッパ
革命とは何か 共産党宣言
- G、セポイの反乱
英国とインド民衆
- H、アヘン戦争と太平天国
西洋列強と中国民衆

(2)授業予定表の作成

課題決定の次に重要なことは、綿密な指導計画である。今までの発表学習は、課題を与えてから発表までの空白を何ら指導しないため失敗することが余りに多かった反省に立ってである。次の5点に留意して予定表を作成した。

- ①充分、準備期間をおく
- ②発表学習に先立ち、教科書を予習させる
- ③調べる時間を授業の中に組み入れる

- ④グループとの打ち合わせ，面接時間をとる
 - ⑤発表後の討論時間の確保
- 以下，プリントを掲載したい。

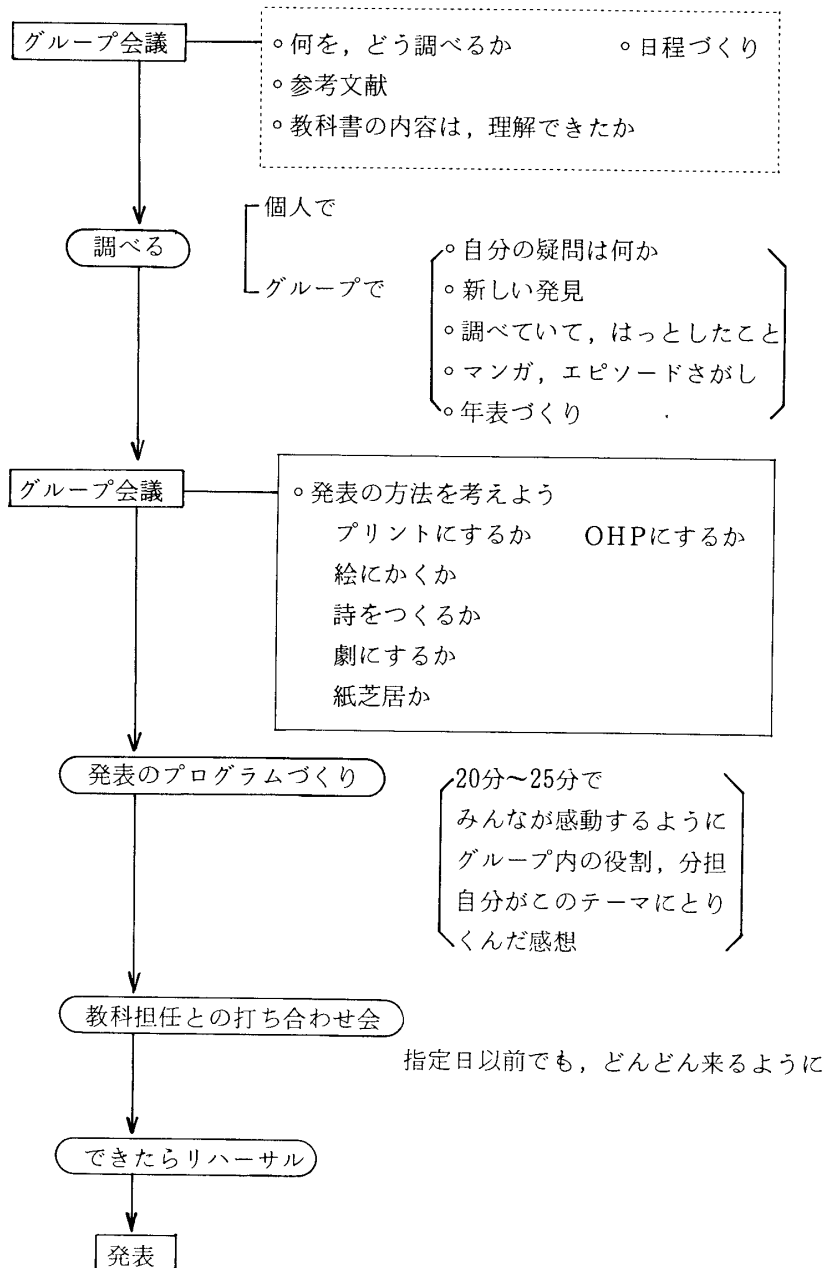
- 12. 2 ○ Bテーマ発表
- 12. 4 ○ A, Bテーマについて質疑，討論の時間
- 12. 6 ※Cグループ
- 12. 11 ○ Cテーマ発表
※Dグループ打ち合わせ会
- 12. 13 ○ Dテーマ発表
15 ※Eグループ打ち合わせ会
- 16 ○ C, Dテーマについて質疑，討論
(以下略) ○印，授業 ※授業後

- 11. 7 ○ オリエンテーション
教科書P 180～213まで，各自ノートにまとめて11. 20(月)に必ず提出
- 11. 18 ○ テーマの決定，グループで何にとりくむか
図書館で参考文献さがし，調べる
- 11. 20 ○ 図書館で調べる
- 11. 22 ※A 研究班との打ち合わせ会
- 11. 25 ○ 図書館利用して調べる
- 11. 27 ○ Aテーマ発表
- 11. 29 ※B 研究班打ち合わせ会

(3)発表までの手順

班長が必ず班会議を召集して，発表までに3～4回打ちあわせることを指示して，次に示すようなプリントを配布した。

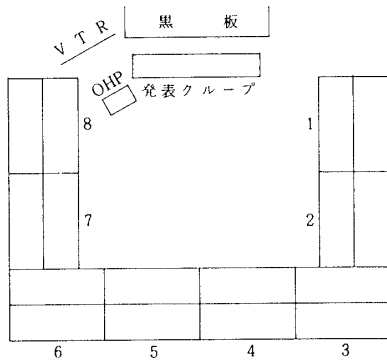
発表までの手順



全員に感想と質問を聞いてもらう

(4)席の並べ方

席はコの字型とし、前から1班～8班とした。互いに話し合いができ、かつ、発表にもむく配置をとった。



3. 実践上の問題点

(1)事前指導にどんな問題点があったか

イ、ノート提出義務、予習のやらせ方

テーマを与える前に、教科書の範囲をノートにまとめ提出を義務付けることで、生徒に一定の知識の定着を期待した。この試みは、今までの発表学習の際、テーマ決定に関して生徒は全く白紙に近い状態で望み、問題意識のないままに過ぎてしまうという失敗からである。今回のノート提出率は100%であったが、そのまとめ方に問題がある。教科書の文章を写す者、小見出し程度でお茶をにごす者、他人のノートのひき写し、など、ノート予習は必ずしも動機付けにはなっていない。したがって、テーマ決定時に何らノートは役に立っていなかった。

日常、ノートの点検をきちんと行っていないと、ノートは全く利用価値のないものとなる恐れがある。ノートのとり方、とらせ方も大きな課題として残った。

ロ、図書館利用の問題点

調べる時間を十分確保したと思うが、調べるための資料について教師側がきちんと把握しておかねばならない。4時間の図書館利用で気づいたことだが、質、量ともに誇る本校図書館は、意外にも中学生向きでなかったという点である。専門書はかなりある。しかし、眼で確かめたり、物語形式のものが少なく、発表学習の前提が、またもつまずいてしまった。

百科辞典のまる写しを避けんがための4時間が、結果として逆になったことを大いに反省するわけである。

ハ、班会議、打ち合わせ会の問題点

集団で発表学習に取り組ませるには、その学級かどうか集団活動しているかが問題になる。集団をどう育てるか、については次の機会にゆずることにして、発表方法、発表内容についての打ち合わせ会のもち方、問題点に触れてみたい。

本校の場合、中学は学年2クラスのため、事前指導も2回ですむ。したがって十分指導できるし、事実、

60分程度の打ち合わせを行った。その結果、つぎのような問題が浮びあがった。

- 班内で与えられたテーマをまた再分化して各自で分担している。
- そのため、縦割りにほくわしくとも横のつながり全体からの視野に欠け、細かなことに眼がいてしまっている。
- 自分のことばとして理解できていない。
- 時間配分がしっかりしていない。

一番の問題は、班内の分業化で、共同作業的視点が薄れ、より細分化した個人発表に変質していく班がでてきたことである。

打ち合わせ会では、今までの取り組みのチェックと具体的な流れを検討するが、教師側からも刺激して、班会議の必要を班員に徹底させておかねばならない。積極的に計画もてきあかっている班は、各クラスにおいて集団的に取り組んでいることがわかる。学級新聞を一週間に8枚も出した班とか、落ち葉を集めて焼きイモの会を主催した班などは、この発表学習を、学級の中の文化活動の一環としてとらえ、はりきっていた。

学級が集団活動を積極的に取り入れている時、各教科もその集団を何らかの形で学習形態の中に組み入れることが、生徒のやる気にもつながっていくことだろう。

(2)発表上の問題点

集団的に取り組んだ班が、必ずしも発表が成功するとは限らない。生徒にとって、50分を受け持つということは、緊張の連続のようである。発表のスタイルはA、B共通しており、プリント資料、VTR利用、OHP利用等のオーソドックスな説明型がほとんどであった。教師の側としては、発表の多様性を期待したが、劇とか紙芝居とか瓦版といった創造的な発表かみられなかったことを残念に思う。発表学習と集団を結びつける視点として、生徒の表現力の向上、創作性、そこから生まれる歴史認識を考えていきたい。

個性的な生徒が多い学年にもかかわらず、発表のパターンが固定化してしまったことは、課題の与え方と生徒たちの問題意識がからみ合っていないことも一因として考えられる。生徒たちは、歴史を依然、ドラマチックにとらえるし、その中における人物の比重は大きい。課題を人物に絞って、エリザベス、クロムウェル、マリーアントワネット、パトリックヘンリー、ナポレオンといったようにしたらどうなるかは今後の研究課題としたい。

(3)事後指導の問題点

従来の発表学習の問題点は、発表者は、わかって発表するか、聞く方は全く受け身でわかっていないという場合が多かった。それを解決するために、今回は、

1. ノートの提出, 2. 点検用紙 3. 討論時間の確保,
4. 定期テストへの関連, といった4つの観点から解決策をはかったわけである。

発表学習点検用紙	
テーマ	() 班
1. 発表のしかたについて (方法, 改善点など)	
2. 学んだことについての感想	
3. 質 問	
番 名 ま え	

1. ノート提出, により予習と全体の概観をつかませ, テーマ決定時への動機付けとする試みは, 前述したように成功したとはいえない。発表時, 発表後, 聞き手がいかに積極的に参加できるかについて, 2. 一発表学習点検用紙を用いた。生徒の相互評価なり, 反省には用いられたが, なかなか授業の場へもちだすことができなかつた。点検用紙をまとめ直して, プリントさせ配布することによって授業の場へ返すことを次の機会に考えたい。

次に3. 一討論時間の設定についてであるが, 教師の指導と生徒の発表と聞き手とを結びつける時間として確保したにもかかわらず, 有効なものとならなかつた。質疑討論は, 2グループ発表終了後におこなったが, ここにも問題がある。まず, 週2時間のπ型の歴史授業のため質疑討論時間まで生徒の歴史認識が持続しない。週4時間で2時間連続を組まないと, この問題は解決できない。

討論のポイントだが, 今回は2点を指示した。

- ①自分たちのテーマと発表テーマとの共通点は何か
- ②発表テーマは, 自分たちのテーマとどんな関係にあるか。

つまり, ①については, 権力と民衆または, 支配する者とされる者という見方を期待し, ②については, 歴史事象の因果関係と, もっと大きな視点から述べるなら, 世界史の発展の問題まで考えてほしかったというねらいである。具体例をあげるなら, フランス人権宣言については, 独立戦争研究班から独立宣言と比較させる質問が, 英革命研究班からは, 国王権力と議会政治の観点から, また, セポイの乱と, アヘン戦争については, 産業革命は何をもたらしたか, なぜ, 独立戦争のような発展をたどらなかつたか。とか, 列強対アジア民衆という図式から歴史を考えさせることもねらいにおいた。この討論の時間は, 歴史学習において, 生徒の認識から出発した範例的手法が可能かという問題提起でもあった。

結論からいうと, この試みは見事失敗した。なぜなら, 枝葉末節的なことがほとんどであり, 比較史的な見方に達する以前の様々な疑問が生徒の頭を一杯にさせていたからである。これは, 発表方法のまずさと, 自分の研究テーマをよく理解していないせいもある。

たった1回のこうした学習の試みで結論はだせないが, 生徒のテーマに対する認識の幅がかなり広がることは事実であった。

質疑討論時間を設定して今思うことは, 生徒の発表については, より具体性のあるものに絞り, 抽象的な概念や評価まで生徒に分担させるのは, 生徒を混乱させてしまうのではないか, ということである。

(4)発表事例

生徒たちがどのような発表をおこなったか, 2つの事例について述べてみたい。

①フランス革命班 (女3, 男2)

班会議, 6回。日曜日に鶴舞図書館に集合して調べる。『ベルサイユのバラ』のマンガも彼らにとっては, 古いものでしかない。班の性格としては, 日常的に結束力があり, 班員の協力性は高かつた。

発表内容

○スライドで, ベルサイユ宮殿を写し, 豪華さについて説明。○マリーアントワネット (スライド) のおいたち。労費の具体例。○第三身分とは何か。黒板利用。○バスチーユのスライド。○革命の推移を年表で示す。○VTR, フランス革命を見せる。○ラ・マルセイユーズの楽譜プリント配布。○ラ・マルセイユーズをきかせる。……………といった, 眼で見, 耳で聞くという多彩な内容であった。

②1848年班 (男3, 女3)

冬休みに全員が生徒の家に集って, 発表のために話し合いをもったという意欲が, このむずかしいテーマを成功させたと思う。前述した, 仏革命班に負けない, というスローガンで臨んだという「共産党宣言を何度読んでもわからないから教えて欲しい」という要求。「リハーサルのリハーサルをやるから先生も見てアドバイスしてほしい」といった, まるで舞台の初日を迎える役者たちを見ているようで, ほほえましいというより, 生徒の意欲に感心した。

このように, 発表学習に入ってから生徒と接する機会がふえている。

(5)テストをどうしたか

発表学習に取り組んでも, テストが従来通りの教科書に従っては何にもならない。2学期末, 学年末は, 発表学習を中心としたものとした。

○二学期末テスト……………論文テスト「各自, 与えられた研究テーマについて800字程度にまとめよ」前もって予告しておく。試験当日は, 何も見ないで書かせた。

さて、その結果であるが、ほとんど全員が、かなり論旨のしっかりしたテーマに沿ったまとめをしていた。アメリカ独立戦争について書く生徒は、各クラス1班ずつ計2班で12名いるわけである。誤字、脱字、漢字の誤りは、前もって減点の対象としてあるだけに対象者はなかった。

この論文テストは、研究課題を消化させる意味で大いに効果があった。また、前述したように、分業化を喰い止め、視点の拡大にも効を奏したと思う。しかし、一面では、このテストのために、原稿を何回か書き直し、ほとんど暗誦できるくらいにして臨んだ生徒もいたようだ。

○三学期、学年末テスト………基本的問題50題提出発表学習を終えてから、各班につきのような課題を与えた。「自分たちの発表したことで、是非覚えておいてほしいこと、知ってほしいことを5つあげなさい」両クラスで80題だされ、プリントして配布しておいた。試験当日は、その80題から50題出題した。両クラスの平均は80%を越していた。

このような方法で、「発表学習」を単に発表にとどめず、事後指導、および、テスト一評価まで考えに入れて計画をしないかぎり、生徒の学習意欲は継続しない。

4. おわりに (注3)

以上、不十分ながら小集団を利用した発表学習のあ

り方を求め、その問題点に触れてきた。また、グループ=小集団という固定した概念についても誤りを指適した。単なるグループ分けによる発表学習から一歩、踏みでてこの実践に取り組んだが、何も前進はしなかった。

学級集団の育成を、教科の側面的援助から、逆に、教科の側から積極的に学級の集団化を促すために、今回の発表学習に取り組んだ。教科の側から、生徒の日常にどう迫るか。小テスト、ノートの点検、レポート提出といった面だけでなく、もっと多面的に生徒を把握するためにも、大胆な学習方法を考えていくべきではないか。「てきない生徒」ときめつけがちな今日、その必要性を痛感した。

(注1) 北田明子『創作ダンスの指導』(本校配要22集)

(注2) 歴史教育者協議会編『たのしくわかる中学歴史の授業』(あゆみ出版)を参考にした。

(注3) 「発表学習」後の生徒の歴史認識、および、その後の授業にどうつなげていったかについては、授業研究5月号『近代国家の成立の導入指導の組み立て方』(明治図書)で触れておいた。